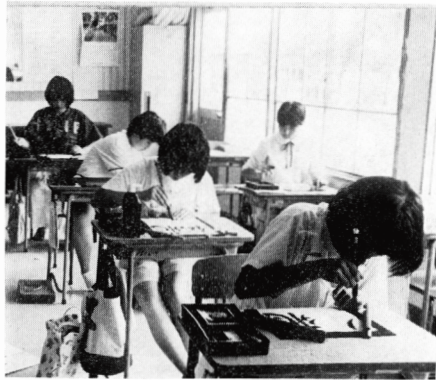


第三十二回 宗像大社中津宮 七夕揮毫会開催

— サザエ拾いに夏を満喫 —



子どもも出て、大賑いのサザエ拾いとなった。
午後三時半、入選の作品が発表、展示され、表彰式が行われた。講評を福岡書道会の、吉田石林先生が行い、「三つ注意致します。枚数を最低五百枚以上書くこと、親と一緒に書を楽しむこと、親は遠くから子を見守ること」と諭された。そして知事賞から金賞までの入選者に、賞状並びに賞品が手渡され、揮毫会も無事終了した。
尚入選者氏名並成績は左記の通りです。

宗像大社中津宮の夏の恒例行事である、七夕揮毫会が、去る七月二十四日宛前大島に於て行われ、宗像郡・市を始め県内各地より三百五十名の良い子等が参加して腕を競った。
三十二回目に入ったこの行事は、夏休みのチビッ子達にとって日頃の練習の成果を試す絶好の機会であると共に、海水浴、サザエ拾いを兼ねるなど、夏を満喫する一日である。
当日、神楽、大島間の渡海船は定期便、臨時便共に早朝よりチビッ子と父兄、引卒の先生方満載してピストン輸送を行い、午前十一時過ぎにやっと平常運航に復する程であった。
大島波止場では、渡海船が着く度に、大勢の人々がどっと渡海船から吐き出され、会場の大島小・中学校まで我先と参加者が列をなした。会場では前日より泊り込んでこの日に備えた、小・中学校の先生方が手際よく揮毫者の指導にあたった。
参加者は揮毫時間までの

- 【福岡県知事賞】
熊谷 秀 (福岡南中1)
田辺 香 (福岡南中1)
【福岡県議会賞】
藤吉 哲明 (高取小6)
竹本 福重子 (城山小2)
【福岡県教育委員会賞】
本田 聖二 (津屋崎小3)
石橋 里恵 (河東中3)
【宗像大社宮賞】
松田よしみつ (安海小2)
松島 志穂 (中央中1)
【宗像市長賞】
山本真由美 (赤間西小4)
力丸 順子 (津屋崎中2)
花田 智裕 (河東小1)
北島 みさ (筑後中3)
【宗像市議会賞】
田中ゆうすけ (信愛幼稚園)
矢幡 大介 (赤間西小6)
【大島村長賞】
橋本 直子 (太宰府東小5)
佐藤 美和 (高取小3)
広渡 篤 (福岡小1)
高田 麻心 (津屋崎小4)
【大島村教育委員会賞】
東村 剛樹 (安海小2)
矢幡 弘之 (赤間西小5)
山本 礼子 (赤間西小5)
永野 千景 (日の里西小6)
水永 洋子 (筑丘小3)

御獄宮に御影石鳥居建立

中津宮氏子高島甚基氏奉納



去る七月二十二日、大島村町区で食料品店を営む高島甚基氏より御獄宮に奉納された、御影石鳥居の奉納奉告祭並びに除幕式が執り行われた。
従来の鳥居は松造りで、六年前に建立されたものであるが、痛みもひどく建て直しの必要にせまられていた。この為氏が寿命五十六年と短い松材よりも半永久的なものとして、御影石の鳥居を建立し、この度の奉納となった。
鳥居建立工事は、福岡市で創業二百七十年を誇る、国松石株式会社が行い、奉納された鳥居は明神鳥居で、柱の径三十三センチ、高さ三メートルの立派なものである。
二十二日、当大社社職三名役員、敬神婦人部等多数参列の中、高島氏自ら除幕を行い、紅白餅を撒いて一同喜びあった。
御獄宮は中津宮の奥宮として参拝者も多く、本年度

第三十三回 宗像大社歌会詠草
中村 吾郎 選

田熊 鷲頭かつ代
遙かなる星座を眺みしわが歌もいつか忘れてなげく眼を病む

大島 目原 節子
重畳の山渡のぼる朝霧を仰ぎつわれば南館をゆく

福間 清原 絹代
黒板に講師は漢文かきつづを言らカセツ切り待ちある

宮田 片山 朔子
久々に福岡に出で味と鑑賞なせり「春の院展」

八幡西 山田 耕夕
打ちはやす紙蘭太鼓の綱を引く手に気負ひの水を掛ける

武丸 立石ろせ乃
調々と水張られたる早苗田に夕映えながし細(ささ)波光る

福間 中村 勇
枕許に電話器寄せて眠りにが連絡のなく朝となりたり小倉北 松木 政子

通堂 木梨ヨシノ
ただ広き旧家にひとり暮すつつ夫の遺影に手を合わせ日々

原町 八波 五月
交換分合の広き植田に腰かがめ農婦が一人日がな補植す

大島 中村さつき
パリニームを飲みつつ胃の中振られを暫しの間物体中似て

福間 広渡一寿軒
手屏風にて漸くつきし線香の煙は香る風強き墓地

徳重 石松や寿子
離れ住むの縁より送り来し印度更紗は着心地の良き

池田 小田しめめ
轟きて流落ちゆくに逆いてとぶ魚の見陽に輝きて

吉留 白木うめめ
異国より渡り来しといふ赤つめ草白つめ草を牛の餌に列る

香椎 桜井 ツ子
禅寺に花咲きてるむ菩提樹を思ふのみ入院の日が過ぎゆく

原町 塩川ハルコ
思い出は苦く哀しも水もえり又めぐり来し八月十五日

東郷 藤崎 辰子
旅ながら心に沁みて望むむ八郎湯の広き水張田

自由ヶ丘 後藤 君代
信号の変われば止りし車連結されしごとくに動く

池田 小田 イセ
虎線の錆つく線路に荒草の覆へる見れば心寂し

深田 中野 節子
敵溝に面一に溜る雨水の光り波立ち夕つきにけり

八幡西 川崎 ウラ
トンネルを出ればバスの方涼し立山連峰残雪ひかる

残暑御見舞申し上げます

代表取締役
長 藤 瀬 将 俊

TEL 0940-331-3303

代表取締役
長 中 村 直 弘

TEL 0940-321-4131

代表取締役
長 森 義 久

TEL 0940-331-1331

宗像西鉄タクシー 株式会社

代表取締役 長 熊 谷 実

宗像市自由ヶ丘二一七三
TEL 0940-321-4131

新星交通有限公司

代表 森 義 久

宗像市 大字 東郷

東郷営業所 0940-361-2138
赤間営業所 0940-331-3038
神湊営業所 0940-621-0010

みなみタクシー 株式会社

代表取締役 古 野 浩

TEL 0940-331-1331

サンサンイチのサンサンイチ

まごころで24時間
マリンプールの

宗像大社歌会 俳句作品集(二)

鐘崎 岩瀬 辰夫
米価値下農友の愚痴聞く田
植哉

田熊 安部 ゆき
行商の訪ふ故郷(くに)言
葉昼寝覚め

福岡中央 力丸 玄風
梅雨更けて灯(ともしび)
一ツ看取り妻

福岡 広渡一寿軒
冷や酒の利きて無口の長話

福岡 二宮 末子
志賀の島海の青さよ海女の
技

池田 小田しめゆ
集落の残影一ツ庚申塔

津屋崎 井浦 良介
鳥青くむ子等姓(よみが)
える父母の微笑

津屋崎 西住喜三郎
七月や女魚割し加工場

田熊 力丸 一郎
老の汗しずかに稿を綴りけ
り

藤沢 井上 玄洋
梅雨集め火山参道川となる
日の里 花田いつえ
尿の鵝の濡れて袖に威を正
す



(続)

決の寄物

20

海漂器(山陰海岸へ)

いししいただし

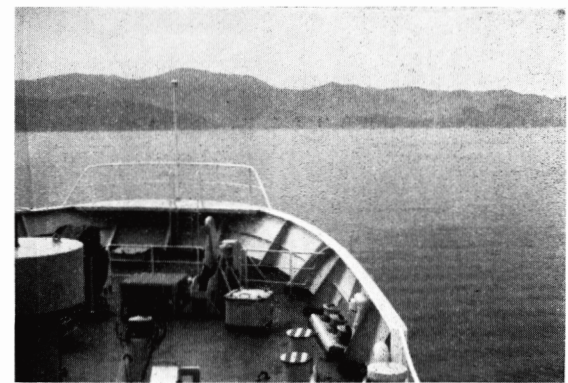
私事で大変恐縮だが、昨年十一月に、福岡市の海鳥社より「漂着物事典」を出版した。漂着物に關するところを一一六項目にまとめたものである。それを読んで下さった人達から、海や漂着物について、いくつかのお便りをいただいた。

まず、ここでは困境の鳥対馬の漂着物について紹介してみたい。現在は大分県別府市に住まわれているが、約三十年間在島され、島の漂着物にも深い関心を持たれていた荒木卓爾氏から送られていた。氏が見聞された場所、南北に長い対馬の西海岸、下県郡原町小茂田(こもだ)から同

は、かつげない位のものでした。イカがあがったり、チヌの様な魚や、小魚の時もありました。友達に誘われて、人より早く行くこと、午前二時半頃に浜へ着いたら、なんと浜はすでに光の行列で、波打ち際を、カンテラなどで照らして歩く人で、パイプがさつと退いた後に、ビチビチはねる魚を五、六匹は拾いました。この年には、笛吹きと言ふ魚を拾いましたが、クチバシの部分だけで四〇センチほどありました。

昭和四三年、フカが沖で半分死にかけていたものを漁師が珍しいものに浜に持って来ましたが、十米位。後にそれが腐れ、臭くて、村中困りました。骨の大きさが茶碗より大きかったもので

註、笛吹き(ヤガラ科)アカヤガラ、アオヤガラ等あり) 海松、これはよく拾いま



た。父が齒科技工士だったので、パイプをかなり作って人に差し上げました。(写真は対馬、厳原港を目前にして)

まつりと生活(七)

衣・食・住の神様

神宮と言へば、皇室の御祖先であられる、天照大神をお祀りしている所であることは、だれもが知っています。しかし神宮というのは、内宮と外宮の総称で、外宮でお祀りされている豊受大神を以て知らない人が多

言われています。東西には神宮独特の棟持柱が一本ずつ使ってあります。横板壁は俗に井楼造りといわれていた特殊な建物です。ここで日別朝夕大御饗祭(一般的にはお日供祭)が行われ、一年中、毎日朝夕の二さんの神様に食事をさしあげています。

先づ水は、外宮の宮域にある社で汲みあげたものを使用しています。この水で扱ったものが特別に供えられました。

神宮の祭の古い記録では、水、飯、塩が主に供えられ、三月三日とか五月五日とかいった節日にあたっては、いろいろな神饗、例えは、あわびとか餅とかいいたものが特別に供えられました。

いたものや、あわび、の鯛、その他沢山の神饗が供えられています。このように豊受大神は、我國の産業特に農水産物の生産を司り、今日我が衣食住に不自由なく、日々を送ることが出来るのも豊受大神の御神徳によるものであります。(Y・S記)

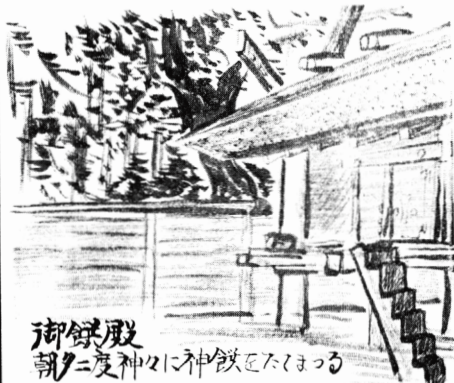
豊受大神(外宮)は、高倉山の麓にあり、豊受大神を主祭神とし、相殿に御伴神三座をお祀りしています。豊受大神は、神宮に伝わる書物により、五世紀雄略天皇の御代に、天照

大神の御饗津神(食事の神)として祀られたと伝えられています。その伝承は次の通り記されています。

ところで豊受大神が天照大神に食事をさし上げる建物とは、古代の日本人の食生活が二回だったその習慣が

この朝夕の大御饗祭に供えられる神饗は時代を追うごとに変遷を重ねていま

奈良・平安の時代になると餅や粥、酒、野菜などと



御饗殿 朝日度神に神饗をたてる

残暑御見舞申し上げます



総合建設業
株式会社 弘江組
代表取締役 中野弘愛
事務所 福岡県宗像市大字稲元三〇三
電話(九四) 三二二五六七
三三三三九一八

総合結婚式場
のがみ会館
取締役社長 野上藤三郎
飯塚 飯塚市新立岩一三三三
〇九四八二一三三三三
宗像 宗像市大字土六四六一
〇九四〇一三三三五五
筑紫 筑紫野市大字塔の原九六九
〇九二一九三二二二二

宗像グリーンセンター
株式会社
代表取締役 瀧口潤一郎
福岡県宗像市大字稲元九〇五
TEL (九四)三三二二七

ハナダ写真館
代表者 山下孝男
福岡県宗像市大字東郷一〇三二
TEL (九四)一三六二〇〇九代